

神奈川県立鎌倉養護学校における学校運営協議会開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催した。

審議会等名称	令和4年度 神奈川県立鎌倉養護学校第1回運営協議会		
開催日時	令和4年6月16日(木) 午前9時30分～午前11時00分		
開催場所	会議室		
出席者	委員：11名 事務局：5名		
次回開催予定日	未定		
問い合わせ先	神奈川県立鎌倉養護学校 副校長 佐藤 浩栄 電話番号 0467-45-1951 ファックス番号 0467-43-4808		
下欄に掲載するもの	議事録	議事概要とした理由	
審議(会議)経過	<p>1. 学校長挨拶</p> <p>2. 自己紹介</p> <p>3. 令和4年度学校運営協議会について(副校長)</p> <p>①組織体制</p> <p>・今年度は福祉避難所運営部会にPTA副会長に参加してもらう。切れ目ない支援部会にはPTA会長に参加してもらい、PTAがどちらにも関われるようにする。</p> <p>②年間活動計画</p> <p>③学校運営協議会開催と記録のホームページ掲載</p> <p>・学校運営協議会の要綱に、この会の記録をホームページにアップすることになっている。ご了承ください。</p> <p>4. 令和4年度の学校目標について(副校長)</p> <p>【質疑応答】</p> <p>(Aさん)：研修会がいくつか行われるが、知識を増やすだけではなく、事例を出してより実践に近づくようなものになるとよい。子どもの様子を見て振り返れるような、実際の支援に基づいたものになるとよい。</p> <p>(Bさん)：「鎌養だより」を地域に配付することはよいこと。鎌倉養護学校の開校当時、地域の反対があったと聞いている。その時に鎌養の教員が学校周辺の住宅にお便りを戸別にポストイングし「よろしくお願いします」とあいさつしたそうである。そういうことからだんだん地域になじんできたようだ。発信力を高めていけるとよい。学校の様子を地域に知ってもらえる機会を増やしていけるとよい。</p> <p>(Cさん)：目標の中にある「相談支援業務」とは何か。</p> <p>→(回答) 校内の相談担当者は、本校の保護者、児童生徒、及び地域の小中学校に対応している。必要に応じて専門職も入り、その子に応じたかかわり方や支援方法をお伝えしている。校内の保護者</p>		

に対しては、保護者説明会で挨拶や業務内容の説明などを行っている。今年度は、「支援だより」に顔写真を載せたり、支援・進路担当者と茶話会を行ったりしている。

(Dさん)：保護者の中でも積極的に相談できる方とそうでない方がいる。まずは担任(窓口)に相談し、そこから担任全体、相談室(支援)…という仕組みがあるとよい。保護者からは担任に相談すると相談室(支援)に伝わるのかどうかはわからない。相談支援の中には、直接の支援なのか、そこにある課題は何なのかを精査していく必要がある。「学校の課題」を共通の部分として、一人の話ではなく、学校としての課題と捉えていけるとよい。

5. 人権が尊重された授業づくりのためのチェックリスト(副校長)

(Eさん)：チェックリスト12「児童生徒の意思決定を尊重しながら授業を行っている」の項目は、具体的には意思形成支援、意思決定支援、意思表出支援、すべてにつながっている。ここが一番大事なポイントである。自分で考える力、決めていく力、言える力、ここがもっとわかるような仕組みを作ってほしい。

6. 不祥事防止ゼロプログラム(副校長)

7. 学校予算・学校施設及び設備等の管理及び整備について(事務長)

【質疑応答】

(Fさん)：コロナ予算で購入したものには、どんなものがあるのか。

→(回答) マスク、フェイスシールド、アルコールなどの感染予防対策、密をさけた授業をするためのテレビ、マイク、カメラなどのICT機器、扇風機やトランポリンなども購入した。暗幕や網戸も取り付けた。医療的ケアの必要な子どもたちにかかわるところでは、パルスオキシメーターの数を増やした。

(校長)：県の特別支援学校は29校あり、新しい学校には体育館に冷暖房設備がある。古い学校には冷暖房設備がなく、健康管理のむずかしい子どもたちが多く、PTAからも何年も要望が出ていた。要望が通り本校にも体育館に冷暖房設備が付き、豊かな学びに結びついている。

8. 医療的ケア児通学支援事業について(副校長)

【質疑応答】

(Gさん)：県の方から各市に説明があった。県と市とで半々の予算でやっていくようだが、今年度は市で予算化がされていない。市は予算がないと動けない。これから市が検討したとしても、実際やってくれる人が見つかるかどうか。放課後デイサービスにしても、人や車を動かしたくても朝は職員を雇ってはいない。訪問看護師や福祉車両は朝が最も人を確保するのが難しい時間帯である。登校時間は動きにくい時間帯であり、ハードルが高い。福祉の事業費としても、単価が安く、メ

リットにならない設定である。

そこまでしてやってくれる事業所があるかどうか。せっかく顕在化した話をどのようにしてバージョンアップしてスタートできるか、課題が多くある。

(Hさん)：下校便が想定されないのはなぜか。放課後デイサービスを利用している人が多いからかもしれないが、朝の時間帯やスクールバス座席の確保、福祉の人や車の確保が難しいのなら、まずは下校便という手もあるのではないか。

9. 連絡事項

(Iさん)：玉縄地域福祉懇談会が10月22日に、3年ぶりに開催される予定である。地域の方と今回の福祉懇談会のテーマを「相談支援の現場から、共生社会を考える」にしようと話している。人生の困難な問題と向き合うことで、他者と関わる力・生き合う力を地域で育むことを考える機会としたい。自分としては、このような地域の取り組みが、今後、学校の保護者の方や教員の方と地域が連携していくきっかけになっていけば良いと考えている。